

# 苫小牧市教育委員会会議録

会議区分	苫小牧市教育委員会 第 1 回 定例委員会
日時	平成24年1月24日 自 15時30分 至 16時55分
場所	苫小牧市役所第2庁舎2階会議室
出席委員	委員長 上原 毅 委員 佐藤 郁子 委員 鈴木 正樹 委員 佐藤 守 委員 山田 眞久
欠席委員	
会議録署名委員	山田 眞久 委員
会議録作成職員	総務企画課総務係主事 田中 亮太
事務局職員	スポーツ生涯学習部長 松 浦 務 学校教育部次長 田 中 章 嗣 指導室長 岩 井 真 二 スポーツ課長 宮 武 康 彦 総務企画課長 戸 村 真 規 総務企画課総務係長 三 橋 大 輔 総務企画課総務係主事 田 中 亮 太
会議案件	別紙のとおり
会議の経過概要	別紙のとおり

1	委員会開会の宣言（上原委員長） … 15時30分
2	会議録署名委員の指名（山田教育長）
3	教育長の報告
	<p>新年を迎えてから早いものでもう3週間が過ぎ、各学校も既に3学期に入っている。札幌では早速インフルエンザによる学級閉鎖があったので心配していたところ、本市においても昨日、植苗小中、沼ノ端中学校で学級閉鎖が出た。さらに、本日澄川小学校、西小と2校出てきたので、これからますます広がっていくのかなと心配している。受験シーズンであるので、予防対策に配慮するよう働きかけた。それでは前回12月22日の教育委員会以降の報告をする。</p> <p>まず、年末12月26日、糸井駅軌道上で中学2年生が列車事故で亡くなるという、大変痛ましい事故が起きた。以前から大人や学生が渡るので危険が指摘されていたと聞く。校区外から1人で、しかも自転車で出かけていたと聞き、子供の行動範囲の把握が難しいことを痛感した。翌日、市教委は通知を出し、線路付近や海や川はもとより、雪道など危険箇所の点検と実態把握のために、先生方の出勤時や退勤時に巡視するよう指示したところである。学校では全校集会を開き、葬儀にも参列するなど哀悼の意を表した。なお3学期が始まったので、改めて登下校の注意を呼びかけているところである。</p> <p>次に、1月6日から4日間、全国大学氷上選手権大会（インカレ）が開催された。選手・役員合わせると2,200人、応援の皆さんを含めるとかなりの人数になり、地元経済の活性化にも大いに影響があったと聞いている。特にアイスホッケーの決勝戦は早稲田と中央大の対戦であったが、両校の選手に、合わせて苫小牧出身者が10数人出場していたこともあって、観客席は市民の応援で盛り上がっていた。</p>

<p>また、先日は、全道大会で小学生のウエストアイスキングが優勝した。このあと、</p>
<p>4日・5日は恒例の苫小牧スケート祭りが開催され、小学生ではこの期間中に道新杯</p>
<p>がある。さらに、中学校の合同Bチームが全国大会に出場し、ホッケーではないが、</p>
<p>緑小ミニバスケットチームも全道大会で優勝し、全国大会に出場する。昨年震災のため中止された恒例のトヨタ国際チャレンジカップで、カナダの中学生が3月にやってくる。学校訪問をするなど中学生との交流やホッケーの交流試合が開催される。</p>
<p>次に、1月8日には成人式があった。委員も出席されたが、住民登録では約1,600人が新成人を迎えたが、会場には72%の1,148人が出席し、華やかに開催された。いつものようにお世話になった中学生時代の先生方のビデオレターが上映され、大いに盛り上がっていた。</p>
<p>次に、23年度の全国学力、学習状況調査の結果が分かった。本市についてはほぼ全国平均であった。昨年は小学5年生と中学2年生で本市独自の調査も4月に実施した。この結果を觀れば、この4月に実施する全国調査の予測がつく。したがって、学年まとめの時期なので、基礎基本の個別指導を行うなど、丁寧な指導にしっかり取り組むよう学校に指示したところである。このことについては、後程指導室長から報告する。</p>
<p>最後になるが、今年度は小学校の新学習指導要領にのっとり、教科書、特に国語や算数・理科などが大きく変わった。したがって、先生方はかなり教材研究に努力したと思う。生きる力、確かな学力の向上などの成果と課題を、しっかり次年度に生かすよう、学校の課題を整理して支援していく。また、中学校も4月から全面実施で教科書が変わるが、既に市教委としては基底カリキュラムを作成し、準備を進めているところである。</p>
<p>本日は、学力調査の結果についての報告等もありますので、よろしく御審議をお願いします。</p>
<p>(上原委員長) 何か意見や質問があればお受けする。</p>

(一同「なし」の声)

4 議 案

議案第1号 苫小牧市美術館基本計画(案)について

(スポーツ生涯学習部長) 苫小牧市美術館基本計画の案がまとまった。24年度建設、25年度7月グランドオープンに向けてどう事業を進めていくか、概略案をまとめたので中身の方を部次長から説明させていただく。

(スポーツ生涯学習部次長) 渡した資料に基づいて御説明させていただく(以下『苫小牧市美術館基本計画(案)』の説明)。

簡単に今後の説明をさせていただく。これから御審議していただき、教育委員会として認めていただければ、市長の決裁を取り、最終的には今月中には協議委員確定したいと考えている。

予算については、美術館の予算と空調部分の改修の補正予算ということで、債務負担行為が2点ある。7月にトヨタ展が開催されるが、現在博物館の空調が故障しているので、美術館の予算と伴って、先行事業・工事として空調の改修工事を行う。3月に着手、6月までには完成する予定である。7月14日から8月19日までトヨタ展が開催されるので、その間は工事中止し、トヨタ展が終了した翌日8月20日から本格的な改修工事が行われる。これまで話した内容の名称・料金については、12月に行われる議会に美術博物館条例を提案して認めてもらいたい。最終的には、4月にプレオープン、7月に出光展をお願いし、グランドオープンとなる。民報さん、道新さんがお持ちいただいた資料があるので御覧いただきたい。

(上原委員長) それでは、議案を質疑に付す。

(佐藤守委員) 今までの博物館のイメージでは、外から見ると、すごく暗くて入りづ

らいイメージがあり、今回のように明るくなるのは大変いいことだと思う。喫茶コーナーを設けると記載してあるが、図書館にもあるが、博物館にも置き、一般業者を公募したりする予定なのか。2か所配置となると営業的に無理があるのではないか。
(スポーツ生涯学習部長) 図書館にあるような業者を入れるのではなく、協力団体にお願いして無料のコーヒーを配るとか自販機を設置するという考えで、商売という観念はない。友の会が関わっているので、どこまで協力してもらえるか協議していく。
(佐藤守委員) 将来的には指定管理者を考えているのか？
(スポーツ生涯学習部長) 行革プランの中には、博物館自体がそういったことができる施設か、時期等分らないが検討している。
(鈴木委員) 絵画等保管する時の空調であるが、非常に難しいとは聞いていたが、トヨタ、出光さんの意向をしっかりと実現できるのか。
(スポーツ生涯学習部長) 保存なり展示するに当たり、温度であれば20℃プラスマイナス、湿度だと55%プラスマイナスという基準に合うような空調設備を改修させていただく。
(佐藤郁子委員) 2ページの小中学校との鑑賞教育事業だが、例えば美術の時間に借りるとか特別展の見学とか様々に応対するとは思いますが、低学年とか高学年とか中心となる学年は考えているのか？
(博物館長) 鑑賞教育という大きなテーマであるが、実際に鑑賞教育をどう進めていくのか、どの学年に重点をおくのか検討中である。現在、高校と小学校の先生に依頼し、データを集めているところである。
(上原委員長) 職員体制の中で館長は兼任ということでもいいのか。
(スポーツ生涯学習部長) あくまで1つの施設で考えている。
(鈴木委員) 絵画の作品だが、当面は苫小牧出身の方の絵画を多く出展するのか？
(博物館長) 最初は出身者の方の作品が多く展示されると思うが、他の美術館から借りたり北海道出身の方の作品を交互に展示したりする予定である。
(佐藤郁子委員) 絵を見たり彫刻に触ったりというのも教育の一環だと思う。また再

<p>度鑑賞教育事業に入ると思うが、小・中学校とは別に親子の教室、子どもよりも親御さんの方が絵を見る機会がないのではと思い、親子一緒に事業を考えていただけるといいのではないだろうか？</p>
<p>(博物館長) おっしゃるとおりであるが、ワークショップの中で具体的なことを聞いてなかったもので、新年度までにできるだけ聞いてみたいと思う。</p>
<p>(佐藤郁子委員) 色々な美術館で日にちを決めず学芸員の方が絵の前で教えたりすることがあれば、興味を示すのではないかと思い、絵をどんな風に見るのかを親御さんから興味を持ってもらえればと思う。</p>
<p>(教育長) 美術館といたら、絵を監視する人が椅子に座って見ている。これじゃダメだよと、市民のための美術館なのだから、すぐに立ち上がって説明し、色々なことができるようにしなければいけない。是非、そうできる美術館を目指したい。</p>
<p>(上原委員長) 質疑がないようなので、原案どおりでよろしいか。</p>
<p>(一同「異議なし」の声)</p>
<p>—原案どおり承認—</p>
<p>議案第2号 平成23年度全国学力・学習状況調査問題を活用した北海道における学力等調査 ～苫小牧市における調査結果(概要)～について</p>
<p>(指導室長) 昨年9月27日に実施した平成23年度全国学力・学習状況調査問題を活用した北海道における学力等調査の結果と考察について報告する。今年度は東日本大震災の影響を受け、全国調査が中止となった。そこで、北海道教育委員会はでき上がっていた23年度学力調査等を活用した北海道の調査をし、本市も参加となった。そのため、通常4月に実施されていた調査が9月下旬と大幅に実施時期が遅れ、それに伴い本市や道教委の結果も届いたのが12月下旬であった。こういった事情により</p>

今回の報告が1月になったことを御理解願いたい。

初めに、市教委からの公表内容についてだが、調査結果の概要を、渡してある資料1ページから3ページになる。詳細4ページから8ページ、及び児童・生徒、及び学校の質問紙調査結果と考察が9ページから38ページになる。さらに、市町村の分布から見る現状は39ページから42ページである。これらを公表するというので提案する。39ページから掲載されている市町村の分布から見る現状については、義務教育の水準の維持向上という観点から、市町村の状況を全道との関係について分かりやすく伝える工夫をする必要があるという道教委の意向を受けた対応になる。ただし、序列化や過度な競争につながらないようにすることを勘案して、市教委並びに各学校では今年度も傾向や課題などを文章で表し、平均正答率等数字の公表は控える。今回の公表のあり方について了承いただいた後、調査結果のポイントを小・中学校別にまとめ、市町村の分布から見る現状とともに、受験した児童・生徒の保護者に配付するとともに、公表資料、結果の概要、結果の詳細、児童生徒及び学校の質問紙調査結果考察、そして市町村の分布から見る現状を指導室のホームページに掲載させていただく（以下配布した議案第2号の説明）。

来年度についてであるが、来年度の全国調査は、抽出調整による全国調査が再開される予定である。また、理科が追加され学力調査は3教科になる。また、希望利用調査も可能であり、今まで同様に希望利用調査に係る採点、集計との経費を道教委で予算を考えている。当面は、こういったことが続くのか、道教委の方で予算措置してくれるのか、道教委の動向を注視していきたい。

なお、次年度4月17日火曜日が調査実施予定日になっている。

(上原委員長) 質疑に付す。

(佐藤守委員) 2ページで小学校では国語よりも算数が好きな児童がいて、中学校では逆の傾向にあるが、指導室としてはどのような捉え方をしているのか。学力向上の取組が小・中学校で進んでいく中で、取り組んでいる学校とそうでない学校との各学校の取組がバラバラになっている気がするが、取組を一生懸命している学校が成果を

<p>上げている気がするので、成果を上げられている学校の取組をに他校に紹介しているのか。</p>
<p>(指導室長) 国語と算数の逆転現象についてだが、国語は回答が1つではないというか正解の許容範囲がはっきりしないところがあるが、算数は答えがはっきりするということで、小学校の簡単な段階では○・×がはっきりする算数を好むのではないか。一方、中学校になると数学が難しくなる傾向があるが、国語は解答なり自分の答えを出せるが、数学に関しては最初から解答が書けないことが増えて、逆転現象が現れたのではないか。中学校段階になると数学の学力を向上するのは難しくなるのかなと思う。中学校で数学が得意な子を増やすためには、小学校の段階でしっかりと基礎学力を高める必要があると考えている。</p>
<p>取組状況についてであるが、長期休業補習を1つ例にあげると、佐藤委員からの御指摘があったとおり、取組にバラつきが出てきたのではないか。これは以前、長期休業補習でいえば、実施する学校、しない学校で足並み揃わなかったが、現状としては、どの学校も実施することが前提になる。実施しない学校でも、長期休業は当然補習をやるべきだという認識は統一されたのではないか。ただ、次に考えるのはどう効果を出すか、取り組むかというところでは、補習をまずするという学校と、補習をし、どう効果を得ようかという学校との取組に差が出たかなと思う。指導室としても各学校の優れた取組、学生ボランティアを活用したり教育支援ボランティアを活用したり、また、いかに子どもたちを休み中に学校に集めるのかという優れた取組情報を収集し、指導を進めいきたい。そういった中で例えば、小学校は今までの流れからすると、勉強が分からなければ夏休み・冬休みに教えるから学校に来なさいとなるが、中学校は少し学校の講義的になり、苦手なところを補強するという取組に変わりつつあるので、小学校の方にも伝えて、何となく自由に集まるだけではなく、学校側も狙いを持って、長期休業を更に効果を上げる方法を指導室としても働きかけていかなければいけないと思っている。</p>
<p>(教育長) 今回は冬休み中ということで、当然中学生の場合は受験や様々なことで勉</p>



強しなければという思いがあるから積極的行動が見られるが、そうでなければ、学校側が来て欲しい子が、自由参加になると来ないケースがあるので、小学校の先生方には、ただ「勉強するから集まれ。」ではなく、工夫して楽しむ感覚を取り入れながら、取り組んでほしい。長期休業だけではなく、普段の学校の中でつまずいているものは早く解決するという部分の家庭学習の充実、放課後の居残り勉強と日常的に力を注いでいくことが大事だと思う。単に長期休業中に何日間登校したかの比較にはならないと思う。各学校、先生方が1つの方向に向かって意識を高めて努力していただくことを我々も期待している。
(鈴木委員) 難しいことだと思うが、家庭の協力もなかったらできない。小・中学校の学習は基礎なので、基礎の時点で数学・算数の問題になってくると、初めにつまずくと尾を引いていくので、付いていけない子どもたちに対して先生方も努力していると思うが、徹底的に対応しているのか。
(指導室長) 個人差があるので、かつてのように1つの学年で全員指導するのは、その子の能力に応じた指導というものは、習熟度別指導を行っている。小学校あたりでは、特殊な学習が中々時間が掛かるので、その子たちを集めて教える指導とか、少人数、小グループで先生が付いて、特に小学校では先生方はフル稼働して、その子その子の状況に応じて指導をしている。
(教育長) この資料の中では分からないが、例えば、特定の問題につき正解率が出るが、その問題の中学校の成績が悪くても、実は小学校では習っているものということもある。一般的に何年生という問題ではなく、小学校時点での問題と思った場合、小学校・中学校の先生方も交流をして、実態を見て、お互いに小・中連携を取ってほしい。
(佐藤郁子委員) 質問を答える小学生と中学生で判断の仕方が違うと思うが、自己肯定感の質問のところで、「失敗を恐れなくて挑戦する。」「よいところがある。」に対して答えるとき、自分をどこに置くかで随分変わると思うが、そういうところに対して資料の見方としては、実際自分がしたことに基づいて答えるのか、倫理観で考え

<p>ているということか。小学6年生、中学生になると考え方も変わってきて、自分のことなのか、授業で習っている道徳的倫理で答えるのかで違ってくると思うので、中学生では理想と現実が分かってくる頃なので、そのときの答え方のさせ方、答え方によって高くなったり、低くなったりするので、説明はされているのか。</p>
<p>(指導室長) 特に質問の時はそこまでの説明を加えていない。あくまでも自己評価なので自分の基準である。そっくりそのまま子どもたちの状況としての捉え方は危険であるとする。傾向で肯定的回答が狭いのであれば、子どもたちは自信を持っていないという考察をした。</p>
<p>(教育長) 結局自分に肯定感を持てるというのは、社会の中で自分の存在というものがいい方向に評価されているかに懸ってくる。例えば東北のように2世帯家族とかで、自分の中の立ち位置がみんなのために活動しているものであるとか、そのような体験から来ることもあると思う。そういった点で北海道の子どもたちは経験が乏しいのではないだろうか。勉強だけでなくスポーツを通してでもいい、地域の清掃とか様々な体験の中で「頑張っているね。」「ありがとうね。」という言葉がかけられる体験がないと自己肯定感が出てこないと思う。兄弟の面倒見がいいなど、それはそれでいいと思う。どちらかと言うと、どうも北海道はそうではない、苫小牧はそうでないと感じる。核家族化しているから周辺との体験が乏しいのではないか。地域の行事に参加する体験が少ない。そういうことがあるのではないだろうか。</p>
<p>(佐藤郁子委員) 設問中の「難しいこと」とはどの辺かなと疑問に思いながらの回答になると思う。自分の体験に合わせてとか、そのような註がないので、私が多分受けても解答に迷うと思う。授業で習ったからこっちは○にしてという知恵や判断力が出てくるので、実際にどのような経験・実践をしているか答えさせるべきだと思う。</p>
<p>(佐藤守委員) 町内会でも、参加する子どもたちは学校の参観日など普段見ている子どもたちと学校行事に出てくる子どもたちとは全然違う。学校内でリーダーシップ取れていない子が町内会に来て下の子どもたちとの縦社会の中に入るとリーダーシップを発揮してラジオ体操など一生懸命になる。地域行事に参加する子がいるので、</p>

<p>地域行事に参加するという事は、地域としても、参加しやすい楽しい行事を作っ て活性化していく必要があると考えている。</p>
<p>2 ページに記載されている国語や算数の教科学習よりも総合的な学習を好む傾向が ある。ということは、総合学習の中に算数、国語の関連するものがあると思うので、 興味が引くもので内容を教えていくという先生達の授業の中身によっても子どもたち が国語、算数が好きになったり嫌いになったりすると聞いたことがあるので、先生 達の研修、興味のある授業をする先生の授業の見学に行くなどの研修授業を充実させ ていただきたい。</p>
<p>(指導室長) 小学生の方で総合的な学習を好んでいて、小学校の時にはテストがなく て子どもたちには楽だったのが好む傾向にあるのかもしれない。中学校に上がると捉 え方が違ってきた。あくまで、子どもたちの意見なので、学校側としてこの意見を子 どもたちの指導に生かしていき、学校の授業の改善に生かしていくのかという捉え方 をしていかなければ、なかなか子供たちの学力向上につながっていかないのではない かと思う。では、なぜ小学校の時には総合的な学習方法を好んでいるのか、学習の面 白さとして捉えているのか、単に楽だから、テストがないから好んでいるのかという 実態を把握しなければアンケート調査が生かされない。学校側もしっかり分析して今 後に生かしてほしいと思う。</p>
<p>(教育長) 地域との関わりで1 2 ページと2 3 ページに小・中学校の地域との関わり の設問があるが、まさに質問の3 3 番だが、苫小牧の場合は、全道全国に比べて地域 行事に参加することが極端に低い。中学生になると全体が低い、苫小牧自体、全道 全国に比べ地域参加が少ない。その点を考えると、子ども会は重要な仕事をしている と思う。</p>
<p>(上原委員長) 質疑がないようなので、原案どおりでよろしいか。</p>
<p>(一同「異議なし」の声)</p>
<p>—原案どおり承認—</p>

5 協 議

(一同「異議なし」の声)

6 そ の 他

委員長の要請により、事務局から資料に基づき、校務システムの説明があった。

7 委員会閉会の宣言（上原委員長） … 16時55分